

## 令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査 学力調査について

※網掛けは、県平均以上を意味する。

### ○平均正答率

国語	小4	小5	小6	中1	中2	中3
久喜市	55.0	64.5	60.0	64.0	54.2	57.0
埼玉県	52.5	62.8	59.3	62.5	54.6	57.0
県との差	2.5	1.7	0.7	1.5	△ 0.4	0.0

算数・数学	小4	小5	小6	中1	中2	中3
久喜市	65.9	47.3	53.8	51.1	50.6	54.9
埼玉県	66.2	48.3	52.4	52.0	51.5	56.7
県との差	△ 0.3	△ 1.0	1.4	△ 0.9	△ 0.9	△ 1.8

英語	中2	中3
久喜市	58.8	49.6
埼玉県	60.2	51.5
県との差	△ 1.4	△ 1.9

### ○学力の伸び

国語	小4	小5	小6	中1	中2	中3
久喜市	-	3	1	3	1	2
埼玉県	-	3	2	3	1	2

算数・数学	小4	小5	小6	中1	中2	中3
久喜市	-	2	2	1	3	1
埼玉県	-	2	2	1	4	2

英語	中2	中3
久喜市	-	4
埼玉県	-	3

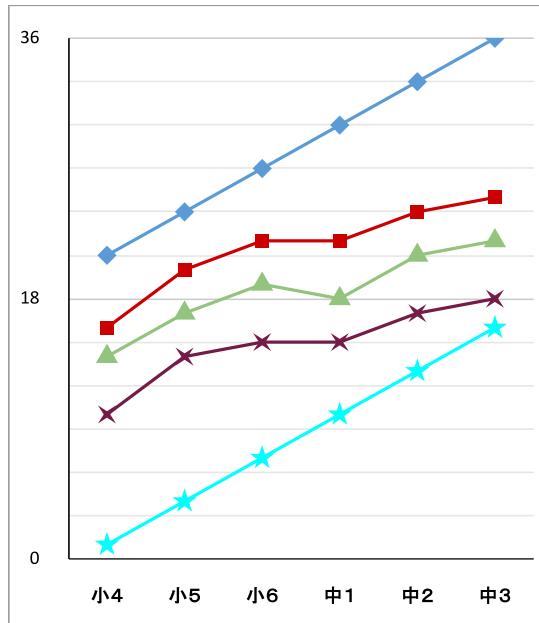
### ○思考・判断・表現問題正答率

国語	小4	小5	小6	中1	中2	中3
久喜市	52.9	53.4	47.3	58.8	53.3	53.6
埼玉県	48.2	52.0	46.3	57.7	54.5	54.1
県との差	4.7	1.4	1.0	1.1	△ 2.0	△ 0.5

算数・数学	小4	小5	小6	中1	中2	中3
久喜市	54.6	45.1	49.7	49.1	46.6	39.6
埼玉県	54.2	45.6	48.6	49.6	47.4	42.2

英語	中2	中3
久喜市	47.4	32.1
埼玉県	49.0	33.7

### 久喜市



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ×
- \* ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- \* ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

○小学校4・5・6年生の国語と中学校1・3年生の国語、小学校6年生の算数で、埼玉県の平均正答率を上回った。

○伸びとして捉えると、中学校3年生の英語で県の平均を上回る大きな伸びが見られた。

○左の学力の推移グラフにおける中学校2年生から中学校3年生の学力の伸びを見ると、1年間で全ての階層で学力が伸びていることが分かる。特に、上位層と下位層で大きく学力が伸びている。

○学力の要素別で見ると、概ね「思考・判断・表現」の正答率が県平均を上回っている学年ほど、平均正答率が高い。

→「知識・技能」と両輪で、「思考力、判断力、表現力」を一体的に高めるような授業改善を図る。そのためにも、学習者である子どもたちを主体とした授業観の転換を、市内全体で引き続き推し進めていく。

●昨年度と比べ、教科での結果の差がはっきりと表れてきている。

→子どもたちを主体とした授業観の転換を図るとともに、教科の見方・考え方を大事にした授業づくりを推進していく。のために、久喜市の教育の特色となっているデジタルな学習環境を教科指導の視点から一層充実させるとともに、児童生徒一人一人の学習に適確に寄りそなうことができる「学びの専門職である教職員」の育成を図っていく。

→本調査において、より学力の伸びに寄与した市内教職員の取組みについて調査し、市内に好事例として広めていく。

→各教科で正答率が顕著に低かった学習については、市独自の学力テスト（久喜市ステップアップテスト）で出題するとともに、一人一人の正答状況に合わせた補習問題を提供することで改善を図る。

### ○非認知能力（参考値）

	小4		小5		小6		中1		中2		中3	
	自己 効力感	自制心	自己 効力感	向社会性	自己 効力感	自制心	自己 効力感	やり抜く力	自己 効力感	向社会性	自己 効力感	向社会性
久喜市	3.88	4.03	3.67	4.09	3.58	3.90	3.41	3.01	3.22	4.01	3.21	3.68
埼玉県	3.79	3.97	3.59	4.03	3.56	3.88	3.37	2.99	3.19	3.99	3.21	3.65
県との差	0.09	0.06	0.08	0.06	0.02	0.02	0.04	0.02	0.03	0.02	0.00	0.03

### ◆学習方略とは？

#### 学習の効果を高めるために児童生徒が意図的に行う活動

○柔軟の方略……学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動

質問例) 勉強で分からぬところがあったら、やり方をいろいろ変えてみる。

#### ○プランニング方略…… 計画的に学習に取り組む活動

質問例) 勉強するときは、最初に計画をしてから始める。

○作業方略……ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動

質問例) 勉強で大切なところは繰り返し書いたりして覚える。

#### ○人的リソース方略……友人を利用して学習を進める活動

質問例) 分からないところがあったら友達に勉強のやり方を聞く。

○認知的方略……より自分の理解度を深めるような学習活動

質問例) 新しいことを勉強するとき、今まで勉強したことと関係があるかどうか考えながら聞く。

#### ○努力調整方略……「苦手」をコントロールして学習への動機を高める活動

質問例) 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでやり続けられるよう努力する。

### ◆非認知能力とは？

#### 意欲や姿勢などどのように数値化されない能力

例) 自制心……イライラしない、心の平静を保てる / 自己効力感……自分への自信、自己肯定力

勤勉性……やるべきことをきちんとやる / やり抜く力……粘り強い、根気がある

向社会性……相手の気持ちを理解、共有し(共感)、自分よりも相手を優先させようとする心情や行動

### 質問紙調査から見えてくるもの

○国の学習指導要領で目指されている「主体的・対話的で深い学び」の実施について、市内どの学年でも県より高い実施状況が見られる。このことから、結果として、昨年度にも増して多くの「学習方略」や「非認知能力」が高い数値となって表れていると考えられる。特に、激動の時代に求められるような「柔軟の方略」や、「生涯学習に結びつくような「認知的方略」において、全ての学年が県平均の数値を上回った。

→久喜市の教育の特色である探究的な学びやデジタルを基盤とした学習による授業改善により、令和の日本型学校教育として目指